

2011 年度地球市民ひろば

第 1 部「ひとりひとりの気持ちを考える～東日本大震災が発生してからの 3 ヶ月～」

第 2 部「岩手県出身の加賀さんから、岩手のお話を聞こう～岩手のおいしいごはんも準備します～」

◆日時: 2011 年 6 月 28 日(火) 19:00～21:00 ◆場所: 沖縄 NGO センター事務所

◆ゲスト: 加賀哲彦さん ◆担当: 岸本佳子

◆参加者: 11 名(スタッフを含む)

第 1 部「ひとりひとりの気持ちを考える～東日本大震災が発生してからの 3 ヶ月～」

■ファシリテーター: 玉城直美(ONC スタッフ)

—「3 月 11 日あなたは何をしていましたか?」: 一人ひとりの自己紹介をしながら、東日本大震災が発生した 3 月 11 日のことについて、それぞれの状況や気持ちを共有した。

—世界の震災(スマトラ島、ハイチ大地震)について振り返る: 2004 年、2010 年に起こった世界の震災について、当時の被害状況について振り返った。

—ハイチ地震直後の報道について: ハイチ地震後に起こった略奪事件の記事を読み、2 人ペアになってそれぞれ気づいたこと、感じた事を共有し、震災時のメディアの情報について考えた。

出た意見: 「記事自体、正しいことを書いているのか」「日本では同じようなことは起きていない?」「ハイチは最貧困国なので、略奪事件が起きるのは分かる気がする」など。

第 2 部「岩手県出身の加賀さんから、岩手の話を聞こう! ～岩手のおいしいごはんも準備します～」

■話し手: 加賀哲彦さん(沖縄在住岩手県出身)

—加賀さんが訪れた被災地の街の写真: 震災後、被災地を訪れた加賀さんが撮った写真の説明してもらった。

—岩手県のお話: 岩手県は沖縄の 6 倍の大きさ。地域によっても習慣や文化も少し違うため、今回は加賀さんの出身地である南部もお話を聞いた。今回のごはんは、加賀さんの奥さんからレシピを紹介してもらった岩手県の郷土料理、ひつまみ汁と焼きおにぎり。

参加者の感想

- ・報道に関することで、マスコミの作りたい記事で事実が編集されている事を改めて感じたこと。
- ・地元のおばあさんの話、こうしたローカルな話しがとても大切だと思います。一関の文化をもっと知りたいと思います。とにかく、現地の人の生の声を聞くことが大切なんだと思います。
- ・いろいろな立場の人の話が聞けました。沖縄にこんなに福・宮から来てるなんて知りませんでした。
- ・被災者の方々からの学びが大きかったです。それぞれの 3.11 にぐっとくるものがあり、薄れかけていた記憶を又思い起こしました。私にできることゆっくりゆっくりずっと考えていきたいです。今日、勉強会に参加できたこと感謝です。